

【仮称】

地域協議会の手引き

(案)

令和 4 年 月

地 域 協 議 会 推 進 市 民 会 議
支 え 合 い 協 働 推 進 課

まえがき

この冊子は、小牧市内で活動するすべての地域協議会の更なる発展と円滑な運営を応援するため、地域活動を企画し取り組むまでの一般的な流れや必要な準備などについて、小牧市と「小牧市地域協議会推進市民会議」とが協議して作成した「手引書」となっています。

この「手引書」では、地域協議会の活動を3つのステップに分け、各ステップで協議・検討すべき内容などについてまとめたり、各ステップをサイクル（循環）させていくことで、より地域の課題に寄り添った活動ができるようになっています。

各地域協議会の皆さんのが活動に悩んだり、迷ったりしたとき、この冊子が少しでも助けになればと思います。

【手引書のイメージ】



もくじ

Step1

現状把握

地域の現状を知る

1. 地域づくりミーティングを企画しよう … P. 1
2. 地域の現状を整理しよう … P. 7

Step2

目標設定

理想の地域を考える

1. 地域ビジョンをつくってみよう … P. 9
2. 課題解決型事業を企画してみよう … P. 13

Step3

課題対応

地域づくりをはじめる

1. 事業を始めるまえに … P. 15
2. 事業が終わったあとは … P. 17

地域協議会への期待

- | | |
|-------|---------|
| 防 災 | … P. 20 |
| 防 犯 | … P. 23 |
| 福 祉 | … P. 26 |
| 児童交流 | … P. 29 |
| 多文化共生 | … P. 31 |

1. 地域づくりミーティングを企画しよう

地域づくりを進めるにあたって、まずは地域の現状を知っておく必要があります。

自分たちの地域にはどんな魅力や資源があるのか、好きなところや自慢できるところはどこか、人口が増えているのか減っているのか、どういうところを変えていきたいのかなど、地域の現状を明らかにしておくことが、その後の目標設定や課題対応へのヒントになります。

「地域づくりミーティング」は、地域に暮らすすべての人を対象に、参加者同士が自分たちの地域のことをテーマとして、日常生活の中で感じる地域の問題点やその解決策などについて話し合う場です。

生活の中で感じる問題は、年齢や性別、立場などによって変わることがありますので、地域協議会の関係者のみならず、回覧等を使って広く地域住民に参加を呼びかけておくと良いでしょう。

地域に暮らす幅広い世代に「地域づくりミーティング」に参加してもらうことで、地域協議会の認知度向上や新たな仲間づくりに繋がることも期待されます。

「地域づくりミーティング」には決まった形式はなく、「何を話し合いたいのか」、「どんな課題に対応したいのか」などによって、その都度、開催方法や進め方を考えていくことになりますが、ここでは例としてまちづくりや地域活動において、よく使われる会議手法等についてご紹介します。

地域の魅力や課題は時が経つにつれ変化することがありますので、活動の成果を確かめる意味でも、少なくとも



1～2年に1度は開催し、定期的に地域の現状を把握することが望ましいでしょう。

(1) KJ法による地域づくりミーティング

「KJ法」は、もともと川喜多二郎 (Kawakita Jiro) 氏によって開発された分類・整理の手法の一つで、5～8人程度のグループに分かれ、各自の意見をふせんに書き、相互に意見交換をしながら、模造紙上でその意見を整理していく方法です。

自分たちが住む地域の「好きなところ」や「最近の困りごと」をテーマに意見交換を行うことで、地域協議会として取り組むべき課題が見えてきます。

「KJ法」による地域づくりミーティングの流れ【約1時間半】

●ステップ1：進行説明（5分）

- ① ファシリテーターによる趣旨説明
- ② 今回の目標や発言のルール、進め方の説明

●ステップ2：グループ分け～アイスブレイク（15分）

- ① 参加者を話し合いやすい5～8人のグループに分ける
- ② 二人一組でミニゲームやお互いをグループ内の人には紹介しあう他己紹介など、簡単なアイスブレイクを行う

●ステップ3：グループでの作業（50分）

- ① グループリーダーの進行により作業を進める
- ② テーマにしたがって、参加者が各々の意見をふせんに記入（1枚1項目が原則）
- ③ ふせんに書いた意見をグループのメンバーに見せながら、お互いの意見を確認しあう
- ④ 模造紙の上で、ふせんの位置を貼りかえ、意見の共通する項目、相違する項目ごとに、全員でまとめて整理する
- ⑤ 整理した項目を確認し、発表者を決める



●ステップ4：発表（20分）

- ① 各グループのまとめを発表し合う（1グループ3分程度の発表）
- ② 全グループが発表して終了

Step1 現状把握

⌚ 知っておきたい、基本的な用語

○ ファシリテーター

地域づくりミーティングの進行役を指します。
進行のみならず、中立的な立場から、参加者同士の自由で活発な
発言を促しつつ、的確な成果へ導く重要な役割を担います。

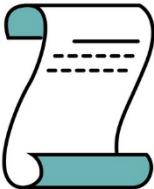
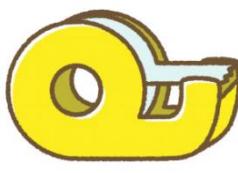
○ グループリーダー

地域づくりミーティングでは、少人数（4～8人程度）のグループ
単位で進めることが多く、このグループの中でファシリテーターと
同じ役割を果たす人のことを指します。

○ アイスブレイク

地域づくりミーティングで欠かせないのが、参加者が自由に意見を出
しやすい楽しい雰囲気づくりです。
そのための参加者の緊張感を解きほぐす手段をアイスブレイク（氷を
割る）と呼び、さまざまなアクティビティがあります。

⌚ 準備しておくと良いもの

 ▲マーカー	 ▲サインペン（黒）	 ▲模造紙	 ▲大きな名札
 ▲タイマー	 ▲ふせん	 ▲テープ	

(2) まち歩きによる地域づくりミーティング

「まち歩き」は、自分たちのまちの課題や魅力を再発見するために、とても有効なアクティビティです。5～10人でグループになり、地域の気になるところを歩いて記録し、話し合っていきます。

普段なにげなく見ている風景や良く知っているはずの街並みも、違う視点で見ると新鮮に見え、新しい発見もあります。

「まち歩き」による地域づくりミーティングの流れ 【約1時間半】**●ステップ1：説明～グループ分けの決定（10分）**

- ① 趣旨説明後、参加者を少人数のグループに分ける
- ② 地図係、記録係の役割分担を決める
- ③ 全員で歩くルートを決める（事前に決めておいてもよい）

**●ステップ2：まち歩き（50分）**

- ① それぞれの役割分担のもとにまちを歩く
- ② テーマに沿って、気づいたものについて意見を交換しあいながら歩く
- ③ 地図係は道案内と現在地の確認を、記録係は参加者の意見を記録する
- ④ 時間内に会場にもどり、休憩

**●ステップ3：まとめ（15分）**

- ① 地図を前に自分達の歩いてきたルートを確認する
- ② 必要な意見やコメントをふせんに書き写し、地図にまとめる

●ステップ4：発表（15分）

- ① 各グループの成果を相互に発表、報告する

⌚ 準備しておくと良いもの

▲ 学区の地図



▲ 筆記用具、下敷き



▲ カメラ

Step1 現状把握

(3) ミーティング以外の手法（アンケート）

地域に暮らす方々の生の声をより多く、より広く集めるために「アンケート」は最も適した手法であると言えます。

特に最近はインターネットの普及により、質問する側も回答する側も手軽にアンケートに参加できるようになっています。

普段、地域づくりに参加しづらい「働く世代」や「学生」などにもアンケート調査を通して地域活動の意義や興味を持ってもらうきっかけになることもあります。

「アンケート」の流れ【1か月程度】

●ステップ1：調査対象と依頼文、アンケート調査票の作成

- ① 調査したい内容とアンケートの対象者を決定
- ② アンケートへの協力を求める依頼文を作成
※依頼文には「アンケートの実施年月日と期限」、「調査主体（問い合わせ先）」、「目的」、「提出方法」、「注意事項（個人情報の保護等）」などを明記
- ③ アンケート調査票を作成
※アンケート調査票に関する留意点などは P.□□

●ステップ2：アンケートの実施

- ① 地域の規模や対象者などに応じて、配布方法や回収方法などを決定
- ② アンケート調査票の配布/公開

実施方法の例

- ・地域協議会の役員や担当者が配布し、回収、または直接提出してもらう
⇒提出用の封筒を用意、アンケート対象が少数の場合に有効
 - ・回覧等で配布し、会館等に専用の回収箱を設置して回収する
⇒会館や学校、公共施設などに設置、対象者が多い場合に有効
 - ・Web上で実施する
⇒物理的な回収が不要、対象者が比較的若い場合に有効
- ③ アンケート調査票の回収
 - ④ アンケート結果の集計

アンケートの設問例

Q. お住まいの地区に持っているイメージに該当する項目を○で囲んでください。

- ・高齢者の数 (多い 少ない)
- ・高齢者への支援や居場所 (ある ほとんどない)
- ・子どもの数 (多い 少ない)
- ・子どもへの支援や居場所 (ある ほとんどない)
- ・近所づきあい (ある ほとんどない)
- ・住民の地域 (区や学校等) (積極的 消極的)
- 行事への参加

Q. お住まいの地区や小学校区の魅力だと感じることは何ですか？

最も近いものを次のうちから最大 2つまで選んで○で囲んでください。

- ・安全安心（防災、防犯など）
- ・年をとっても住みやすい（福祉）
- ・きれいな街並み（都市整備、環境美化など）
- ・近所や地域との交流（イベント、多世代/多文化交流など）
- ・その他（ ）
- ・特になし

Q. お住まいの地区や小学校区の課題だと感じることは何ですか？

最も近いものを次のうちから最大 2つまで選んで○で囲んでください。

- ・安全安心（防災、防犯など）
- ・年をとっても住みやすい（福祉）
- ・きれいな街並み（都市整備、環境美化など）
- ・近所や地域との交流（イベント、多世代/多文化交流など）
- ・その他（ ）
- ・特になし

**Q. 上記の課題を改善/解決していくために必要だと思う取り組みがあれば
自由にお書きください。**

Step1 現状把握

⌚ ミーティングを開催するときのヒント

参加者が集まって行う形式でミーティングを開催するときには、以下の点に注意しましょう。

- ① 回覧や掲示板などを利用して広く周知、案内する
(若年層の参加を促す際にはホームページやSNSの活用も検討)
- ② 働く世代にも参加しやすい日にち、時間帯、場所で
(平日の日中や夕方、連休の中日は避けるなど)
- ③ ミーティング結果は保管し、次回に活かす
- ④ 地域にミーティングの成果を周知（事業化の有無など）

⌚ アンケート調査票を作るときのヒント

アンケート調査の回答率を上げるため、アンケート調査票を作るときには、以下の4つの点に注意しましょう。

- ① 質問文は簡潔で誰にでもわかりやすい文章を心がける
- ② 設問数は少なく、なるべく選択式にする
- ③ 専門用語などの使用は避ける
(使用する場合は意味を書き添える)
- ④ 回答方法を明確にしておく
(選択肢から1つだけ選ぶのか、複数選べるのかなど)

参考資料

- ①小牧市市民意識調査
(市民生活の現状についてのアンケート)
- ②防災アンケート調査



①市民意識調査



②防災アンケート

2. 地域の現状を整理しよう

「地域づくりミーティング」が終わったら、会議で出された意見をまとめ、整理してみましょう。

意見を整理する際には「クロス分析」を行うことで地域の特色や課題が分かりやすくなります。

クロス分析とは意見をいくつかの「属性」に分け、それぞれの「属性」を掛け合わせて分析する方法です。

分析の例として、まず、ミーティングでの意見を「防災」「防犯」「福祉」などの分野別に分けていきます。

次に、各分野の中で良い点（長所）と課題点（短所）に分けると、どの分野にどんな強み・弱みがあるのか、特色や課題が分かりやすくなります。

地域の長所を伸ばすことはもちろん、短所と思える部分もアイデア次第で地域活動のきっかけや成果へ結びつくことがあります。

◆□□小学校区地域協議会のクロス分析の例（分野×長所/短所）

分 野	長 所	短 所
防 災	・土地が高い場所にある ・水害の心配が少ない	・避難所の運営スタッフが少ない ・狭い道にある自販機の転倒
防 犯	・住宅地で人目が多い ・街灯などで夜でも明るい	・生活道路を抜け道にする車が多い
⋮		
福 祉	・サロン（活動）が多い	・サロン等の担い手がない ・高齢化の進行

Step1 現状把握

アンケートの調査結果を集計する場合は、前述の方法に加え、回答者の年代や性別などの属性で各設問の調査結果を分析することもできます。

この方法では、年代・性別による回答の違いが傾向として分かり、各属性で上位にあがっている項目は、住民全体で意識、要望が高い項目と言えます（下の例では「災害への備え」）。

◆□□小学校区地域協議会のクロス分析の例（年代×設問）

「設問例．わたしたちの地域の「課題」だと思うことを教えてください。（複数可）」

年 代	第 1 位	第 2 位	第 3 位
20 歳以下	飲食店が少ない	交流行事の企画	災害への備え
20~65 歳以下	子育て支援	災害への備え	行事などの整理
65 歳以上	高齢化対策	災害への備え	伝統の継承

また、地域づくりミーティングで整理、分析した意見などは回覧や掲示板、ホームページや S N S などの W e b を通じて地域に公開、共有するようにしましょう。

地域の特色や課題を広く共有することで、その後の地域協議会活動への理解や協力が得られやすくなります。



Step 2 目標設定

理想の地域を考える

1. 地域ビジョンをつくってみよう

地域ビジョンとは地域協議会が目指す地域の理想像/将来像とその実現に向けた道筋などをまとめたものです。

目指す地域の姿がはっきりしないと地域づくり事業（手段）だけが先行するようなことになり、地域協議会の活動が何に寄与するのかが曖昧なまま、手段の実現ばかりに注力されることになってしまいがちです。

地域ビジョンを通して地域協議会が何を目的に活動をしているのかを明確にし、これを広く発信することで、地域協議会の参加者のみならず、地域に暮らす多様な方からの幅広い応援を働きかけることもできます。



<p>陶小学校区地域協議会 地域ビジョン～陶の道しるべ～</p> <p>平成29年1月</p> <p>陶小学校区地域協議会の 「地域ビジョン」</p>	<p>5th 篠岡学区地域協議会 5周年記念誌 ～篠岡学区地域ビジョン～</p> <p>篠岡学区地域協議会の 「地域ビジョン」</p>	<p>作成中 (R3 完成予定)</p> <p>小牧原小学校区地域協議会の 「地域ビジョン」</p>
---	---	--

(1) 地域の目標や理想像（スローガン）を考える

「地域づくりミーティング」などを通して整理した長所／短所から地域の特徴や課題が浮かび上がってくると思います。

Step2 目標設定

それらを踏まえ、今後、自分たちの地域をどうしていくか、どうなるとよいかについて話し合い、地域の理想像や課題解決のための目標、活動のスローガンなどを考えていきます。

地域協議会の事業は、ここで決めた目標や理想像に向かって活動していくことになるので、誰もが分かりやすく馴染みやすいものにすると良いでしょう。

◆ □□小学校区地域協議会の例

地域の現状

防災について

□□では幸いにして昔から大きな災害に見舞われることもなく、土地が高く大きな河川などもないことから、比較的災害に強い地域と考えられてきました。その一方で、災害に対する意識や経験に乏しく、万が一、大きな災害に見舞われたときのための備えやマニュアル整備が必要とされています。

防犯について

□□では、日中は人目が多く、また夜間も防犯灯の設置や地域住民の有志による防犯パトロールボランティアなどによって、住宅の侵入盗などの被害が市内でも最も少なくなっています（×年×月 現在）。今後は、防犯パトロールボランティアの組織化と活動の支援および県道〇〇線付近で度々発生する交通事故に対して、歩行者やドライバー等への安全意識に対する啓発活動が必要とされています。

福祉について

現在、□□には5つの高齢者サロンがあり、それぞれが健康体操や演芸披露、様々なレクリエーションなどを通じて高齢者の健康づくりを支えています。しかしながら、地区の高齢化率は年々上がっており、サロンの必要性も高まっていることから、活動の輪をさらに広げていくことが必要とされています。

理想像/ スローガン

安全・安心で誰もが暮らしやすい□□

(2) 達成目標、課題解決の方法を検討する

目標やスローガンが決まったら、それらを実現し、課題を解決していくための具体的な方法（事業）について検討を行います。

大きな目標とは別に、事業毎に小目標を設定するのも良いでしょう。

小目標を数値化することで成果が分かりやすく、事業も企画しやすくなります。

事業と小目標を設定したら、達成に向けた期間も定めましょう。

◆□□小学校区地域協議会の例

担当部会	事業	期間	事業毎の小目標
防災	学区防災訓練の開催	毎年	参加者〇〇〇人以上を目指す
	避難所運営マニュアルの策定	〇年までに	学区の防災関係者に配布する
防犯	安全マップの作成・配布	〇年までに	学区内に全戸配布する
	パトロール隊の組織づくり	〇年までに	隊員30名以上を目指す
福祉	高齢者サロン研修会の開催	毎年	2月に1回以上開催する
	おたすけ隊の推進	毎年	年〇件以上活動する

(3) 地域協議会の沿革や過去の活動記録を残す

委員の交代などで、新しく地域協議会活動に携わろうとしている人にとっては、地域ビジョンは各地域協議会活動の手引書にもなります。

地域協議会の設立経緯や過去の活動実績を記しておくことで、在籍期間による委員間の知識格差を是正し、以降の話し合いや事業企画を円滑に進めることができます。

Step2 目標設定

⌚ 地域ビジョンを作るときのヒント

地域ビジョンを作る過程で、ビジョンの骨子や細かい文言などは事務局や役員が中心になって作りこんでいくことが多いと思います。

その場合でも、節目節目で地域の方々が内容を確認し、意見交流する機会を設けましょう。

地域ビジョンは「地域協議会の計画」ということだけではなく、地域で話し合ってつくった「自分たちの地域のための計画」であるという認識をもてるようになります。

2. 課題解決型事業を企画してみよう

地域づくり事業は「課題解決型」と「交流促進型」の2種に大分されます。住民同士の交流という目的がはっきりしている「交流促進型」と異なり、「課題解決事業」は対応する課題によって事業の目的から内容に至るまで多種多様です。

課題解決型の事業を企画する際には、すぐに事業の検討に入るのではなく、まずは「課題（短所）」と「原因」を整理しましょう。

1つの課題に対して、原因は複数あることも多く、それらを **1つでも多く**見つけることができれば、より細やかで実効力のある事業を企画することができます。

❶ 事業を企画するときのヒント

(1) 暮らしに身近な「防犯」や「防災」から考えてみよう

「空き巣やひったくりなどの犯罪が増加している」、「地震や風水害への備えが心配だ」、等々、防犯・防災に関することは、活動の大きな動機のひとつです。

まさに安全・安心や危機意識の共有という意味では、防犯と防災の活動は共通点も多いため、両方の活動に関わる方々が連携して取り組まれている事例も見られます。

(2) 楽しみ、生きがい、居場所づくりも重要なポイント

地域協議会の活動は防犯や防災だけではなく、活動そのものが楽しみ、生きがいとなっている場合もあり、例えば、健康を目的としたウォーキングでも、世代をこえた仲間とのふれあいや終わったあとの慰労会や打ち上げを楽しみに参加している人もいると思われます。

活動の押しつけや義務感だけでは、仲間も増えず、活動の継続も難しくなっていきます。

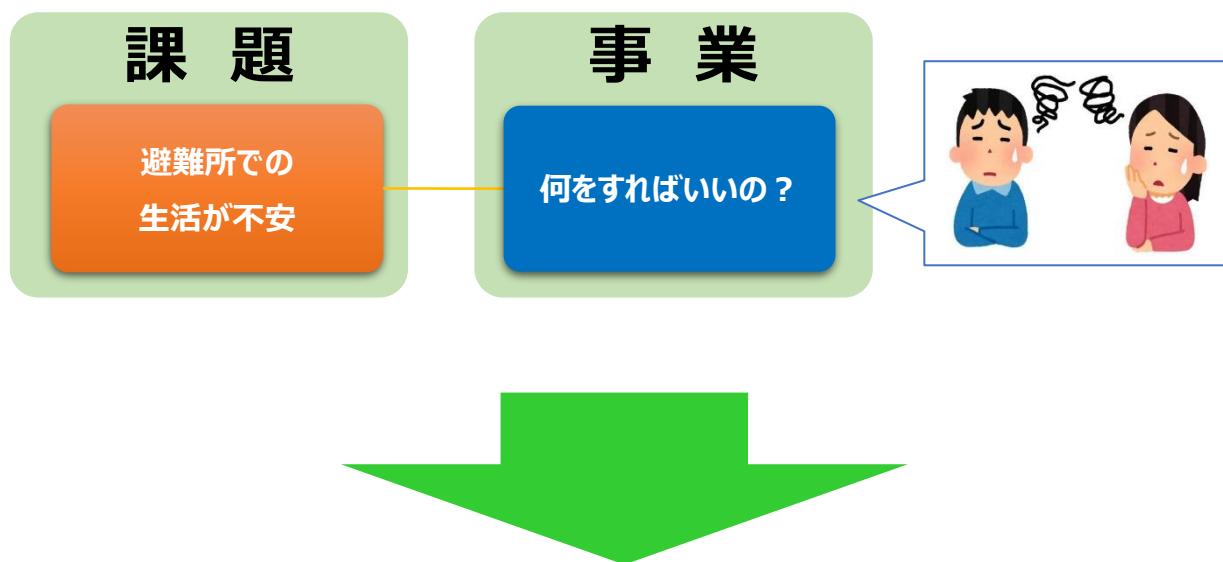
地域協議会では「楽しみ」という要素も重要なポイントです。

Step2 目標設定

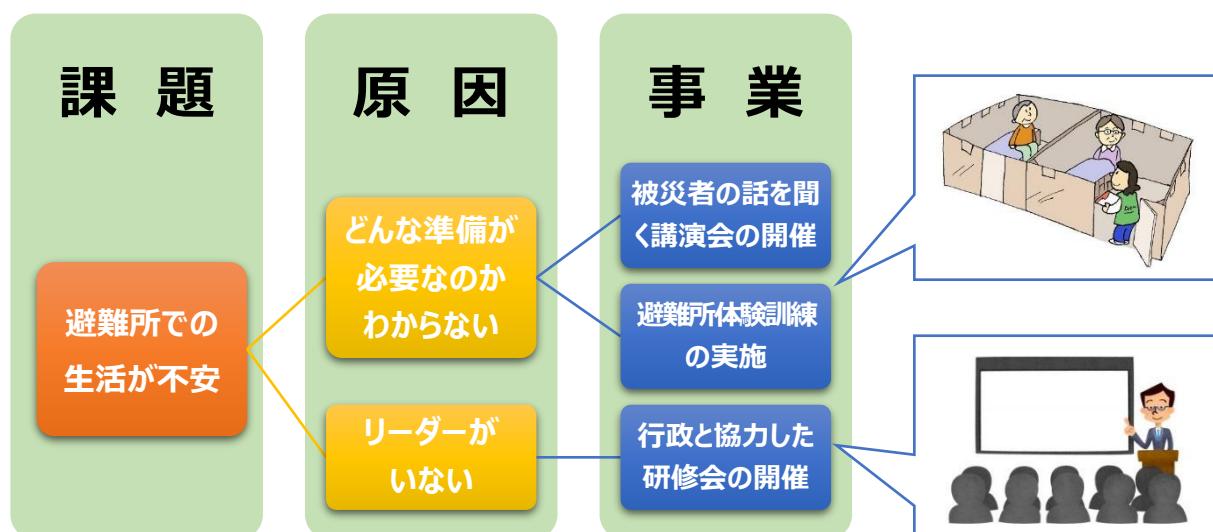
◆事業の企画に対する「原因」の有無



「原因」を明らかにせずに事業を企画すると
事業の目的や内容があいまいになってしまいがち・・・



「原因」を明らかにすることで、事業の目的も明確になり、
より効果的な内容で事業を企画することができる！



1. 事業を始めるまえに

地域協議会の組織や予算、事業の内容などによっては、地域ビジョンに記載した「事業」や「取り組みたいこと」を一度に実現することは難しい場合もあります。

そうしたときは、事業の必要性や緊急性、実現性（取り組みやすさ）などから、地域協議会として実施する順番を決め、複数年をかけて取り組んでいくと良いでしょう。

◆ 「□□小学校区」の例

事業の優先順位	必要性	緊急性	実現性	備考
①学区防災訓練の開催	◎	○	◎	
避難所運営マニュアルの策定	◎	○	△	
②安全マップの作成	○	○	◎	
パトロール隊の組織づくり	○	○	△	
③高齢者サロン交流会の開催	○	△	◎	○○年度はまず「防災訓練」と「安全マップ」、「サロン交流会」を実施することとし、他の事業については、今年度は検討のみにとどめ、次年度以降に事業化します
おたすけ隊の推進	◎	○	△	

順番を付けづらい場合は、暮らしに身近な「防犯」や「防災」から考えても良いでしょう。

「空き巣やひったくりなどの犯罪が増加している」、「地震や風水害への備えが心配だ」等、「防犯」「防災」に関することは、地域住民の関心も高く、地域の安全・安心という意味で共通点も多いため、両方の活動に関わる方々が連携して取り組まれている事例も見られます。

実施する事業が決まったら、その詳細を詰めていきましょう。

「いつ（日時）」「どこで（場所）」「何を（内容）」「誰が（役割分担）」「何のために（目的）」「どうやって（手段：費用、準備、広報など）」やるか、といったこと整理した企画書を作成しておくとスムーズに事業の準備を進めることができます。

Step3 課題対応

◆ 「□□小学校区の企画書（ウォーキング大会）」の例

□□小学校区ウォーキング大会 企画書

1. いつ（日時）

○○年○○月○○日（○曜日） 10時～

※集合：9時30分

2. どこで（場所）

- ・集合：○○小学校 グラウンド前
- ・中継：○○公園
- ・ゴール：○○ふれあいの森

3. 何を（内容）

- ・○○ふれあいの森までのウォーキング
- ・○○ふれあいの森内での散策、自然観察

4. 誰が（役割分担）

- ・先導：○○、○○、○○
- ・最後尾：○○、○○、○○
- ・危険個所の見守り：○○、○○、○○、○○、○○、○○
- ・医療係：○○、○○
- ・記録係：○○、○○

5. 何のために（目的）

ウォーキングを通した体力づくりと自然観察を通したリフレッシュ

6. どうやって（手段）

- ・保健センターより準備運動と正しい歩き方を指導
- ・借用するもの：誘導棒（○○区より）、無線機（市役所より）
準備体操 CD/プレイヤー、救急箱（保健センターより）
- ・購入するもの（予算：○○円）

食糧費	○○円（飲み物：○○箱）
消耗品費	○○円（記念品：○○個、画用紙：○○枚）
印刷費	○○円（回覧チラシ：○○枚）
手数料	○○円
保険料	○○円（イベント保険）

2. 事業が終わったあとは

実施事業が終わったら、必ず、実施した事業の評価を行うための振り返りの場や反省会を開催するようにしましょう。

「事業の目的は達成されたか」「役割分担は適切だったか」、「不足したものはなかったか」、「過大な費用ではなかったか」、「効果的な広報がされたか」などの項目を確認しておくことで、次回以降、より効果的な事業に改善することができます。

◆ 「□□小学校区 ウォーキング大会」の例

□□小学校区ウォーキング大会 振り返り書

○月○日（○）反省会での意見まとめ

「日時」は 適当だったか	<ul style="list-style-type: none"> ・気候も良くウォーキング日和だった ・中学校のテスト期間が近かったため、次回は配慮することを検討しては
「場所」は 適当だったか	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者アンケート調査では、コースの「距離」について9割以上の方から「ちょうど良い」と回答いただいた ・一部舗装されていない道があり、ベビーカー同伴で参加された方が歩きづらそうだったことから、次回はコース設定時にこうした道がある場合は事前周知しておく
「内容」は 適当だったか	<ul style="list-style-type: none"> ・ケガやトラブルもなく、参加者全員が無事に完歩することができた ・予想以上に多くの方に参加いただけて良かった ・子どもの参加が少なかったため、子ども用のレクリエーションや参加賞の用意なども検討する
「役割分担」は 適当だったか	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が予定より多かったので、次回は2グループに分け、先導と最後尾は2×2名に増やす
「目的」は 達成されたか	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者へのアンケート調査では、9割以上の方から「満足」との回答をいただけた
「手段」は 適当だったか	<ul style="list-style-type: none"> ・誘導棒と掲示物は次回以降、今回のものを使いまわすことで費用を抑えて実施する ・子どもの参加を増やすために、回覧とは別で、学校から子どもたちにチラシを配布してもらうよう調整する

Step3 課題対応

事業参加者に対して、当日に簡単なアンケート調査を行うことも有効な手段です。

事業の良かった点や改善すべき点などについて、企画側からは気づきにくいところを指摘してもらえるだけでなく、アンケートを通して新たに協力者を募ることもできます。

◆ アンケート項目の例

Q1. ウォーキングコースの長さ（距離、時間）はいかがでしたか？

- ①ちょうど良かった ②長かった ③短かった

Q2. スタート時間はいかがでしたか？

- ①ちょうど良かった ②もっと早いほうが良い（早朝）
③もっと遅いほうが良い（夕方）

Q3. 実施時期（季節）はいつ頃が適切だと思いますか？

- ①春（3～5月頃） ②夏（6～8月頃）
③秋（9～11月頃） ④冬（12月～2月頃）

Q4. 平日と休日、どちらが参加しやすいですか？

- ①平日 ②休日 ③どちらでも良い

Q5. 今後もウォーキング大会を開催して欲しいと思いますか？

- ①毎年開催して欲しい ②年2～3回開催してほしい
③隔年くらいで良い ④今回限りで良い

Q6. ウォーキングコースの提案などありましたら、簡単に記載ください。

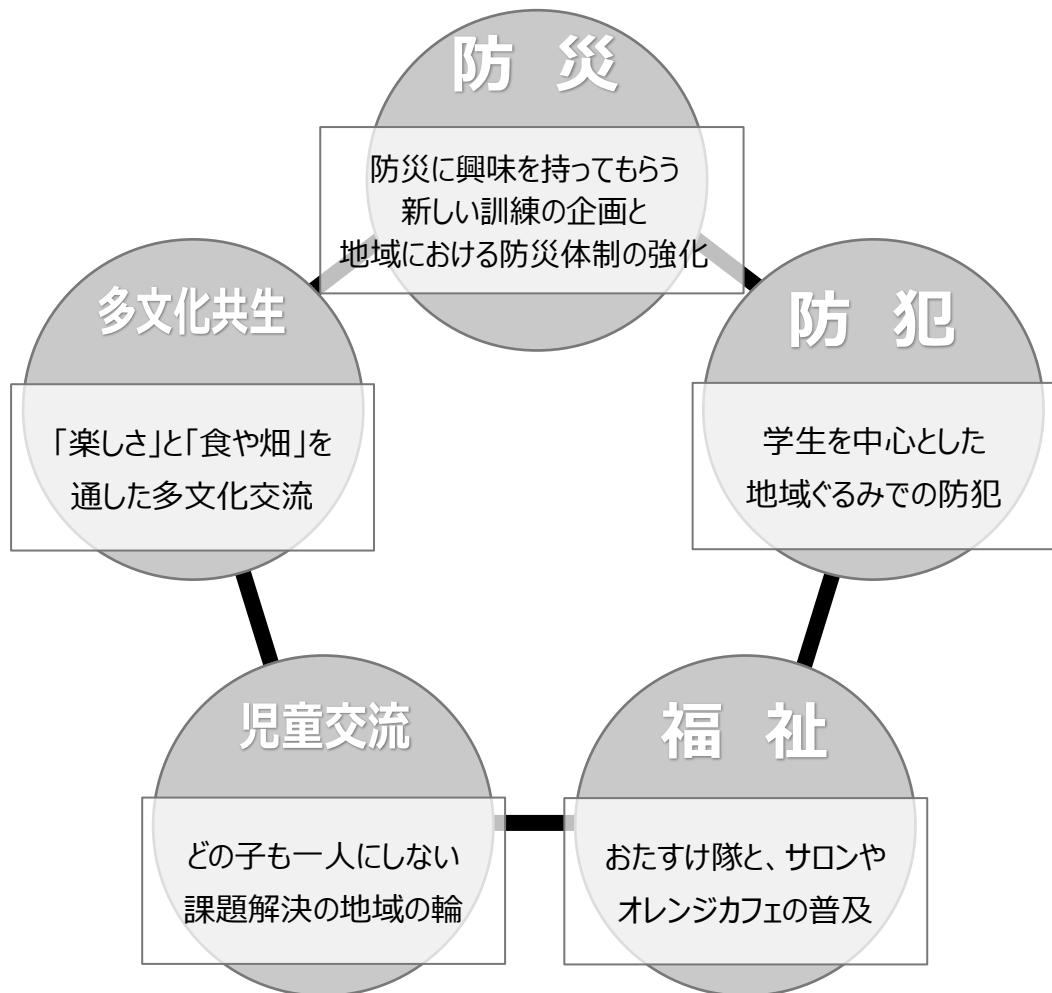
地域協議会への期待

地域協議会推進市民会議では、令和2年度から全地域において共通した課題として「防災」「防犯」「福祉」「児童交流」「多文化共生」の5つの課題をテーマに、その解決に向けて各地域協議会に期待する役割や活動について検討を重ねてきました。

以降に記載するものは、必ずしもすべての地域に当てはまるものではありませんし、すべからく地域協議会の対応を求めるものではありません。

しかし、各地域協議会で今後、これらの課題について協議、検討することがあれば、そのテーブルに挙げていただき、一考いただきたいと思っています。

【地域における5つの課題】



防災



防災に興味を持つてもらう
新しい訓練の企画と
地域における防災体制の強化

1. 地域協議会と「防災」

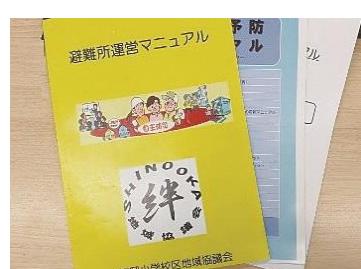
地域協議会では、これまで小学校区毎に「防災訓練」が企画され、消防や市の防災関係課と連携しながら、様々な工夫を凝らした実践的な訓練がなされてきました。

また、一部の地域協議会では住民が主体となった避難所運営についての検討がなされ、避難所運営に関するマニュアルや運営体制の整備をされた協議会もあり、これらの活動により地域住民の防災に関する意識は高まりつつあります。今後は、より実効力のある防災体制/防災対策の強化に取り組んでいただきたいと思います。

防災に関する地域協議会の活動事例



▲学区防災訓練



▲避難所運営マニュアルの作成



▲黄色いハンカチ作戦

2. 地域協議会に期待する役割

(1) 学区防災訓練の継続と発展

ほとんどの地域協議会で取り組んでいただいている事業であり、毎年、地域ごとに多くの参加がありますが、その内訳を見ると高齢者に偏っており、参加者も固定化しがちです。

今後はこれらの活動を継承しつつ、若年層や要支援者、外国にルーツを持つ方など、様々な立場の人を巻き込んでいくことが必要です。

特に、小中学生が防災に興味を持てるよう学校との連携を密にし、新たな手法の防災訓練を企画することで、将来的な防災活動の担い手育成と地域全体の防災意識を高めていくとともに、**災害対応できるよう実務的な訓練も継続しましょう。**

■ 事業の例

避難訓練など
学校行事への協力



実務的な訓練、
避難生活体験会、
防災キャンプ



防災運動会

【大城】



炊き出し訓練

【篠岡、小牧原、
大城など多数】



参考資料

- ①小牧市防災ガイドブック
- ②小牧市避難所開設運営マニュアル



▲ガイドブック



▲運営マニュアル

(2) 防災関連団体等との関係づくり

災害時には、行政のみならず「区（自治会）」や「民生委員」、「自主防災会」、「消防団」、「婦人消防クラブ」、防災に関する様々な「地域活動団体」などが協力して対応にあたる必要があります。

しかしながら、それぞれの団体が平時何をしているのか、緊急時の役割分担や連携などについては十分に確認できていない場合があります。

地域協議会の場で、それらの団体が繋がり、各々の役割を改めて確認し、さらにはその情報を住民に広く知らせることで、災害時の対応に向けて、より強固な体制が作れると思います。

■ 事業の例

団体間の
意見交流会



災害時の担当者同士
(例. 各地区の避難所
運営の方) の話し合い



(3) 地域の防災リーダーの育成

災害対応に際して、最も不安視されるのが防災リーダーの不在です。避難所運営だけに焦点を当てても「避難所開設」から「避難者の把握」、「自治体との連絡や広報」、「物資受領」、「衛生管理」など、様々な対応が想定されます。

それぞれの役割を把握し、指示することができるよう強い統率力を持ったリーダーの育成はあらゆる地域での共通課題であり、地域協議会がその中心的な役割を担うことを期待しています。

■ 事業の例

担い手養成の
講演会、講座
【篠岡】



学区を超えた
防災リーダー同士の
情報共有



防災リーダー会、
災害ボランティア
ネットの会との協働



3. 関係機関/団体

(1) 行政機関

地域の防災訓練に 関すること	防災危機管理課 防災危機管理係（76-1171） 消防総務課 消防係（76-0229）
災害時要支援者に 関すること	福祉総務課 社会福祉係（76-1196）
災害ボランティアに 関すること	小牧市社会福祉協議会 ボランティアセンター（77-0636）

(2) 類似/先進事例団体

防災全般	小牧防災リーダー会
災害ボランティア支援センターの支援／災害ボランティア	小牧災害ボランティアネットの会

その他、地域活動団体の紹介等については
「市民活動センター ワクティブこまき」まで
お問い合わせいただくか、右記QRコードから
検索いただけます。

【問合せ先】0568-48-6555



▲ワクティブこまきホームページ内
「こまき団体情報ガイドブック」

防犯



学生を中心に、地域全体で
防犯に取り組む体制づくり

1. 地域協議会と「防犯」

「犯罪のない安全で安心な暮らし」というのは、地域に住まう誰もが望むものであり、生活に身近な地域課題である「防犯」は、「防災」に次ぎ、各地域協議会が積極的に取り組んでいるテーマです。

各区の自主防災パトロール隊などと協力した効率的・効果的なパトロール活動の検討や実践、市の防犯カメラの設置場所などに関する提言、青色回転灯パトロール隊の結成、安全マップや啓発ノボリの作成など、多種多様な事業が実施されてきました。

今後も地域住民の「安全で安心な暮らし」を守っていくため、地域協議会活動の中心的なテーマとして取り組み続けていただきたいと思います。



▲学区一斉防犯パトロール



▲青色回転灯パトロール隊



▲安全マップの作成

2. 地域協議会に期待する役割

(1) 気軽に取り組める防犯活動の普及

買い物のついでや犬の散歩など、日常生活の中に少しだけ「防犯の意識」を取り入れる「ながらパトロール」や子どもたちの登下校の時間帯（午前8時および午後3時頃）にあわせ、地域の大人が買い物や散歩、庭いじり等で意識的に屋外に出る「8・3運動」は時間的・精神的な負担なく、一般的な地域住民の方たちにも取り組みやすい活動です。

多くの地域住民が防犯の“目”になることで、犯罪を未然に防ぐ効果が期待できます。

■ 事業の例

ながらパトロール/

8・3運動

【篠岡、光ヶ丘】



(2) 小中学生と共に防犯活動

地域の小中学生に防犯パトロール活動を体験してもらうことは、小中学生自身の防犯意識の向上のみならず、どんな場所に注意すればよいのかを知ることで事前に危険を回避する能力を身に付け、日頃からパトロール活動をして下さっている方々に対する感謝の気持ちを育み、さらには将来的な担い手育成にも繋がります。

小中学生ボランティアのモチベーションを維持するための工夫や短い時間で効果的なパトロールをするための方策などを地域協議会の場で検討していくことでパトロール活動そのものの継続性も高められます。

■ 事業の例

小中学生と共に防犯
パトロール活動体験



小中学生と共に防犯
地域の安全マップづくり
(ICTの活用)



3. 関係団体

(1) 行政機関

防犯や交通安全に 関すること	市民安全課 交通防犯係 (76-1137) 小牧警察署 (72-0110)
通学路に 関すること	教育総務課 庶務係 (76-1164)

(2) 類似/先進事例団体

中学生と協力した パトロール活動	春日寺区防犯パトロール隊
車両による 青色回転灯パトロール隊	ふらっとみなみ 環境・防犯パトロール隊 篠岡学区地域協議会 青色回転灯パトロール隊

その他、地域活動団体の紹介等については
「市民活動センター ワクティブこまき」まで
お問い合わせいただくか、右記QRコードから
検索いただけます。

【問合せ先】 0568-48-6555



▲ワクティブこまきホームページ内
「こまき団体情報ガイドブック」

福祉



おたすけ隊やサロン、
オレンジカフェの普及

1. 地域協議会と「福祉」

小牧市の高齢化率は令和3年1月1日現在で24.8%であり、今や4人に1人が65歳以上の高齢者という超高齢社会です。

しかし、福祉の活動を含む、地域の様々な活動については、10年前と比較して大きく後退しているといったことはなく、いわゆる「元気な高齢者」らにより、活発に活動いただいており、地域協議会でも、これまで「高齢者向けのウォーキング大会」や「サロン交流会」、「おたすけ隊の活動」、「オレンジカフェの運営」などの取り組みが実施されてきました。

これらの取り組みは、単に高齢者支援にとどまらず、「元気な高齢者」を増やし、支え合いの地域づくりにも寄与してきました。



▲ウォーキング大会



▲おたすけ隊



▲オレンジカフェ

2. 地域協議会に期待する役割

(1) 「おたすけ隊」や「サロン／オレンジカフェ」の展開

現在、各地域協議会が実施されている地域の高齢者福祉に関する活動のうち、とりわけ「おたすけ隊」や「サロン／オレンジカフェ」などの地域における高齢者支援活動は、人の役に立つことで参加者自身が大きな達成感や満足感を得ることができるだけでなく、活動を通して自らの心身の健康を保ち、介護予防にもつながります。

これらの活動が地域協議会の間で広く展開され、すべての地域で取り組まれるようになれば、地域住民が元気に暮らしていける温かい地域づくりに繋がっていくと思っています。

■ 事業の例

おたすけ隊

【篠岡、味岡
小牧原】



サロン交流会/ 勉強会

【陶、篠岡】



オレンジカフェ

【陶、篠岡】



3. 関係団体

(1) 行政機関

生活困窮などに 関すること	福祉総務課　社会福祉係 (76-1196)
ふれあい・いきいきサロ ンや認知症カフェに関す ること	地域包括ケア推進課 福祉政策係 (76-1188) 社会福祉協議会　地域福祉課 (77-0123)
地域の高齢者支援に 関すること	南部地域包括支援センター (71-2100) 小牧地域包括支援センター (77-2893) 味岡地域包括支援センター (75-3956) 篠岡地域包括支援センター (78-7530) 北里地域包括支援センター (43-2260)

(2) 類似/先進事例団体

住民主体での運営が されている認知症カフェ	オレンジカフェしおかむら 陶オレンジカフェ
地域の高齢者の 困りごと支援	しのおか おたすけ隊 (篠岡学区地域協議会) あじおか おたすけ隊 (味岡小学校区地域協議会) 小牧原おたすけ隊 (小牧原小学校区地域協議会)

その他、地域活動団体の紹介等については
「市民活動センター ワクティブこまき」まで
お問い合わせいただくか、右記QRコードから
検索いただけます。

【問合せ先】 0568-48-6555



▲ワクティブこまきホームページ内
「こまき団体情報ガイドブック」

児童交流



どの子もひとりにしない
課題解決の地域の輪

1. 地域協議会と「児童交流」

核家族化の進行、共働き世帯の増加、ライフスタイルの変化、SNSの普及などによって、地域のみならず、家族間の関わりすらも希薄になっていく家庭や子どもたちが増え、かつてのようなご近所や地域からの支援も、得られにくくなっています。

地域協議会では、「夏祭り」や「クリスマス会」などの季節の行事や「スポーツ大会」、「音楽祭」などの交流イベントを開催し、地域のつながりを感じられるようにしています。

こうした活動は孤立した家庭の子どもが地域の輪に入る第一歩にもなり、必要な支援へつなぐ場ともなる可能性をもっています。



▲夏祭り



▲クリスマス会



▲スポーツ大会

2. 地域協議会に期待する役割

(1) 地域の緩やかなつながりと社会的孤立の防止

地域からのお知らせなどは、現状、回覧板／掲示板等によることが多く、孤立した子どもや子育て家庭ほど、児童交流のイベントなどのお知らせも知らないままとなり、前述のような事業も十分な効果を発揮できない可能性があります。

そこで、地域協議会の活動に関する情報を広く確実に届けるには、様々な手段を用いた発信が大切です。

ホームページやSNSなどは若い世代ほど馴染みが深く、必要な情報をすぐに届けることができ、また反応を投稿してもらうことができます。

一方で、声掛けや口コミによる情報発信は、より確実に、ピンポイントに情報を伝えることができ、顔の見える関係づくりにも繋がります。

時代や状況に応じた様々な手段を用いて、継続的に発信し、「ゆるやかな地域のつながり」を感じてもらうことが、「どの子もひとりにしない」地域づくりの第一歩です。

■ 事業の例

SNSなどを使った
情報発信
【本庄】

写真/
イラスト

あいさつ運動など
顔の見える関係づくり
【小牧原】

写真/
イラスト

(2) 地域における「居場所づくり」と児童館との連携

子どもたちを取り巻く状況が大きく様変わりしている現在、子どもや子育て家庭を孤立させないよう、地域とのつながりを感じられる「居場所づくり」の活動が求められています。

小牧市には市民センターやコミュニティセンターに加え、100か所以上に地域の会館があり、そうした場で例えば「食堂」や「異世代交流」、(学校と連携して)「学習の支援」などができるれば、孤立および孤食・欠食を防ぎ、さまざまな人との交流をとおして、子どもや子育て家庭が、課題解決に向けた“地域の輪”に入っていくことができると思います。

また、子どもたちの集いの場、遊びの場として、市内8か所に「児童館」が設置されており、これらの施設と地域協議会が連携できれば、定期的なイベント開催や子どもたちの居場所づくり活動も企画しやすいでしょう。

■ 事業の例

地域と児童館との
関係づくり



こども食堂
(親子食堂)



こども向け
学習支援



3. 関係団体

(1) 行政機関

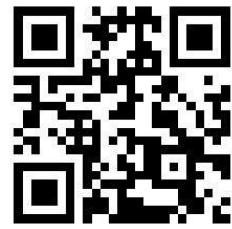
こども食堂に関すること	福祉総務課 社会福祉係 (76-1196)
こども向け学習支援 <駒来塾>に関すること	地域包括ケア推進課 福祉政策係 (76-1188) 社会福祉協議会 地域福祉課 (77-0123)
地区の会館に関すること	自治会支援室 自治会支援係 (39-6573)
コミュニティセンターに 関すること	支え合い協働推進課 地域支え合い係 (76-1149)
児童館に関すること	多世代交流プラザ 事業推進係 (71-8616)
学校に関すること	学校教育課 学校教育係 (76-1165) 各小学校

(2) 類似/先進事例団体

保護者と学校の連携	P T A、おやじの会（お父さんの会）、
地域と学校の連携	コミュニティスクール
こども食堂	こどもっと食堂 (北外山 とよめサロン)

その他、地域活動団体の紹介等については
「市民活動センター ワクティブこまき」まで
お問い合わせいただくな、右記QRコードから
検索いただけます。

【問合せ先】 0568-48-6555



▲ワクティブこまきホームページ内
「こまき団体情報ガイドブック」



多文化共生

「楽しさ」と「食」 多文化交流の推進

を通した

1. 地域協議会と「多文化共生」

「多文化共生」については一部の地域協議会で行事のチラシや案内文を多言語化して回覧するなどの取り組みがされてきましたが、「多文化共生」そのものをテーマとした活動は実施されていませんでした。

一方で地域に目を向けると、日本と母国との文化や言葉の違いに加え、生活する上での細かいルールが地域

(自治会) 每に異なっていたりするため、未だにごみの分別や騒音などに端を発するトラブルが解決できていない現状があります。

これらの課題はもちろん一朝一夕に解決できるものではありませんが、外国にルーツを持つ人も含め、地域全体で考えていく機会や体制を作っていくためにも、まずは外国にルーツを持つ人が地域の一員として、地域づくりに気軽に参加できるような土台づくりが必要だと思われます。

El consejo comunitario del Subcomité Infantil del Distrito Escolar de la Ciudad de México presenta "Méjicos del Invierno".

Festival de Navidad "Shinokko"

Fecha y horario: 21 de diciembre (sábado)

Lugar: Salón de la Escuela Primaria de Shinokko

11:30 Inicio de la distribución de mochis

13:00 Inicio Recepción

13:30 Cierre de la recepción

14:35 Juegos de premios y repartimientos

(Aprendizaje seremos todos especialistas en sus actividades Locomoción de Shinokko)

14:45 Nuestro día de celebración del Teatro de Cartulinas (Koreinkai)
[Banda de la Familia Arguedas]

Juegos con Karateidos

16:00 Cierre

* Por favor venan con atuendos para el fin
de año y regalos para los niños, preferiblemente en monederos.)

Informaciones: Secretaría del Consejo Regional 080-3000-3400

Formas de Inscripción: Hasta el dia 20 de noviembre (Viernes), tiene el formulario de inscripción en su escuela, descargable en la web indicada y entregado al profesor responsable (turno matutino).

Formulario de Inscripción para el Festival de Navidad "Shinokko"

Nombre _____	I - Señor	II - Señora	III - Señor
del niño _____	I - Señor	II - Señora	III - Señor
Ramón _____	_____	_____	_____
Momoko _____	_____	_____	_____
Un solo nombre _____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____

Último nombre de la persona que lleva el nombre de Ramón _____

Los padres presentes deben dar su consentimiento escrito para el pago:

Si consiente que sus hermanos lleven el nombre de Ramón _____ en su año, lo que

▲多言語化されたチラシ

2. 地域協議会に期待する役割

(1) 「楽しさ」で知る多文化

子どもたちは「遊び」や「楽しさ」を通して、言葉や文化の違いを越えて自然と交流を深めています。

地域でしばしば企画される「クリスマス会」なども、もとは外国の行事が定着したものであり、同じように外国の文化や行事に触れられる機会を設けていけば、子どもたちのみならず、親同士、あるいは世代間でも自然に多くの異文化に触れ、理解する機会が増えていくと思います。

同じように、外国にルーツをもつ人たちにも日本の伝統行事の体験などを通して日本に対する理解や愛着を深めてもらうことで、将来的には「参加者」から主体的に関わる「協力者」になっていくことが期待されます。

■ 事業の例

様々な国の行事や
家族のイベントを体験



言葉や文化の
違いを超えて
楽しめるイベント



小学校区合同の
誕生日会



(2) 「食」で知る多文化

「食」は毎日の生活に密着したもので、いろいろな国の料理を食べる機会も増えた今日、それらを紹介する炊き出しやグルメイベントなどはコミュニケーションのきっかけ作りには最適なものだと言えます。

また、一部の地域協議会では「地域の畑づくり」に取り組まれており、こうした活動を外国にルーツを持つ人を含む地域全体で取り組むことで、「耕作」から「収穫」、「調理」といった過程を楽しみつつ、「食」を通して多文化を体験する機会へとスムーズに繋がります。

■ 事業の例

地域の畑づくり/
週末ファーム

【一色】



収穫祭／
様々な国
の料理の炊き出し



3. 関係団体

(1) 行政機関等

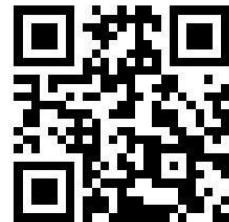
多文化共生の推進に 関すること	多文化共生推進室 多文化共生係（39-6527） 小牧市国際交流協会（76-0905）
--------------------	---

(2) 先進事例団体等

外国籍の子どものための 言語や学習のサポート	一色コスモスサポート学習の会 にわとりの会
食を通じた多文化交流	一色ふれあい農園 (一色小学校区地域協議会)

その他、地域活動団体の紹介等については
「市民活動センター ワクティブこまき」まで
お問い合わせいただくな、右記QRコードから
検索いただけます。

【問合せ先】0568-48-6555



▲ワクティブこまきホームページ内
「こまき団体情報ガイドブック」

(仮称) 地域協議会の手引き
令和4年 月

発行：小牧市

〒485-8650 小牧市堀の内三丁目1番地

TEL：0568-76-1149（直通）

編集：小牧市 健康生きがい支え合い推進部
支え合い協働推進課
地域協議会推進市民会議

(背表紙)